友情販売プロジェクト

～被災地高校生を本校に招待して～

福岡県立若松商業高等学校教諭　学校活性化推進主任
川崎　謙一郎

１．はじめに

平成 23 年３月 11 日，東北地方太平洋沖地震にて，被災されました皆さまに，心よりお見舞いを申し上げます。

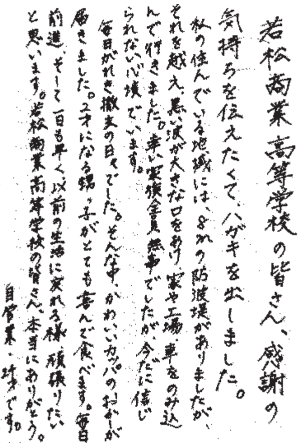
本校では，平成 20 年度に駅弁のかしわ飯で有名な株式会社東筑軒の協力により「若商河童弁当」，平成 21 年度に「若商河童ミニ弁当」，平成 22 年度に日本全国に店舗を構える株式会社もち吉の協力により「若商河童せんべい」（１缶 12 枚入りのサラダ味）の商品開発に成功しました。また，「若商河童」は平成 23 年４月１日付けで登録商標を取得しました。このことにより，「若商河童弁当」「若商河童ミニ弁当」「若商河童せんべい」の３つの商品は，「若商河童ブランド」として確立し，地元を中心に親しまれています。

若商河童せんべい
WAKASHO KAPPA SENBEI

２．友情販売プロジェクト

⑴震災直後

平成 23 年度も新商品（「若商河童せんべい」しょうゆ味）の開発を予定していました。東日本大震災後，当時の生徒会役員より「私たちもできることをしたい。本校オリジナル商品の「若商河童せんべい」を被災地へ送りたい。」との申し出がありました。そこで福岡県（北九州市）を通じて「若商河童せんべい 500 缶を 500 枚のメッセージとともに被災地へ送りました。被災地からの反響は大きく，たくさんの電話・メール・はがき等でお礼をいただきました。当初は，地元での「若商河童せんべい」の販売実習を予定しており，収益金で新商品の開発を考えていました。支援物資として「若商河童せんべい」を送ることで新商品の開発はできませんでしたが，お礼の言葉を生徒に伝えると「商品開発の研究は継続できないが，送って良かった。」と喜び，自分たちの行動が役に立っていると実感したようでした。



若松商業高等学校の皆さん、感謝の
気持ちを伝えたくて、ハガキを出しました。
私の住んでいる地域には、8mの防波堤がありましたが、
それを越え、黒い波が大きな口をあけ、家や工場、車をのみ込
んで行きました。幸い家族全員無事でしたが、今だに信じ
られない心境でいます。
毎日がれき撤去の日々でした。そんな中、かわいいカッパのおかしが
届きました。2才になる孫っ子がとても喜んで食べます。毎日
前進、そして一日も早く以前の生活に戻れる様、頑張りたい
と思います。若松商業高等学校の皆さん、本当にありがとう。
自営業・[illegible]子です。

⑵岩手県立宮古商業高等学校

本校では，平成 13 年度より地元の若松商店街にて年末に販売実習を行っています。当初は場所代を払い，販売実習を行っているだけで，商店街との連携はありませんでした。しかし，２年前から若松商店街連合会事業部長や地元商工会議所の方と，この販売実習の打ち合わせを行うことでコミュニケーションを図ることにしました。

平成 23 年 10 月に，若松商店街連合会事業部長が「全国商店街支援センター」の現地マネージャー育成事業に参加しました。これは，次世代の商店街を担う人材を育成するという事業です。今回は，その

事業の支援機関が東日本大震災の商店街復興マネージャーであり，この繋がりで現地研修として岩手県宮古市の商店街に足を運んだようです。

頂いたお土産の中に，岩手県立宮古商業高等学校が地元企業に協力して商品開発したバームクーヘンがありました。事業部長から紹介していただいた宮古商業高校の鎌田先生に連絡を取り，バームクーヘンを仕入れ，本校の販売実習が行われるたびに「若商河童シリーズ」の３つとバームクーヘンを販売しました。バームクーヘンの売り上げは義援金として宮古商業高校に送っています。

そのたびに，鎌田先生からはお礼の言葉を頂くのですが，震災から１年を過ぎると震災の話をする生徒は少なくなり，風化しているのを感じました。本校生徒150人を抽出して行ったアンケート結果も，震災に関心があると答えた生徒は約９割でしたが，１年を過ぎると約５割に減っていました。

風化させないためにも，宮古商業高校の生徒さんを本校に招待し，一緒に販売実習したいと考えました。そこで，若松商店街連合会事業部長と地元商工会議所の方に相談しました。その結果，「全国商店街振興組合連合会」の商店街実践活動事業補助金の申請をしていただき，数ヵ月後認められました。様々な条件があるようですが，３泊４日で60万円以上の予算が付いたようです（予算に関しては商店街が担当）。そして，宮古商業高校鎌田先生，生徒５名，宮古商店街青年部会長の計７名を本校へ招待することができました。

⑶被災地高校生を本校に招待して

初日は移動のみで本校生徒会との交流は30分程度でしたが，同じ商業高校生として，商品開発など共通の話題があり，すぐに打ち解けたようでした。

２日目は本校体育館にて全校生徒対象に歓迎会を行い，震災の話をしていただきました。本校生徒会進行で，震災の動画を見ながら，鎌田先生にご説明いただきました。宮古商業の生徒の皆さんはインタビュー形式で話をして頂きました。被災地の学校では震災を思い出させないようにしているため，震災の話は避けて，津波などの映像も極力見せないようにしているそうで，宮古商業の生徒さんも初めて聞く話，初めて見る映像だったとのことでした。本校生徒も涙して聞いていました。

３日目は今回の目的である，若松商店街での友情販売実習です。本校生徒約20名とともに，お互いの商品を販売しました。当日はこの２校だけで約65万円以上の売り上げがあり，若松商店街全体の売り上げも付随して好調でした。販売後は反省会を行い，商業高校生同士としてお互いの良いところや悪いところなどを話し合いました。

最終日は生徒会で見送りをし，最後の別れを惜しんでいました。私自身も鎌田先生や商店街の方と毎晩語り合い，被災地の現在の状況を直にお聞きして，勉強になることがたくさんありました。そして震災のことを再び考え直すきっかけとなり，今後私たちのやるべきことを具体的に計画することにしました。計画の１つに私たちが被災地に行き，販売実習を行いたいとの意見も提案されました。

歓迎!!
岩手県立
宮古商業高等学校の皆様

３．おわりに

友情販売実習が実現できたのは，この提案を快く引き受けていただいた宮古商業高校の皆さまのおかげです。心よりお礼を申し上げます。そして何より，実現するためにはどうしたらよいかを考えていただいた，若松商店街や地元商工会議所に感謝を述べたいと思います。そして今年度は，宮古商店街が「全国商店街振興組合連合会」の商店街実践活動事業補助金の申請をする計画があり，本校を被災地へ招待する予定があるようです。今回の友情販売実習を通して感じたのですが，申請が降りることは非常に難しく，今年度も実現できるかは未定とのことです。

しかし，これらの活動は多くの方々に評価いただいております。「若商河童せんべい」も日本各地から注文をいただいております。また，平成25年11月９日・10日に行われる，全国産業教育フェア愛知大会への出店が決まりました。皆さまも販売実習，文化祭，イベント等で高校生支援物資の代表ともいえる「若商河童せんべい」を販売しませんか。注文をお待ちしております。